

トピックス **ぶらす**

10/27

自立した生活に向けて相互に交流

精神障害への正しい理解を深め、意見交換やふれあい企画などを通して、障害を持つ人の自立した生活を支援しようと10月27日、市迫公民館で「第5回こころのフェスティバル」が開催されました。フェスティバルには、障害を持つ人や指導員など約80人が参加し、活動の紹介やグループごとの意見交換、レクリエーションなどを行いました。



▲多くの人々が参加し交流した「こころのフェスティバル」

10/31

秋の夜長に昔懐かしい音楽を楽しむ

十三夜のお月見に合わせ10月31日、市歴史博物館で「お月見会」が開催されました。この事業は、国内外の音楽や歴史に触れてもらおうと毎年開催されていて、今回は「北村大沢楽隊」を招き演奏会が行われました。会場には、市内外から多くの皆さんが来場し、楽隊の司会によるユーモアあふれるトークや、昔懐かしい音楽を楽しみました。



▲北村大沢楽隊による素晴らしい演奏が響き渡りました

11/1

竈神さまなどの文化財継承の一端を担う

平筒沼農村文化自然観察館の来館者に、竈神さまなどの民俗資料や沼の自然などについて説明する「解説ボランティア」の研修会が11月1日、同館で開催され、12人の解説ボランティアの皆さんが、文化財保護委員などから展示資料の詳細や歴史的背景などを学びました。同館では、今月中旬より週休日に来館者への解説サービスを予定しています。



▲講師から郷土の歴史などについて学ぶ参加者

11/10～13

絵画や書などの芸術作品が一堂に

県芸術祭に出品された優れた絵画（洋画・日本画）と書を展示する第46回宮城県芸術祭巡回絵画・書道展「登米展」が11月10日から13日まで登米総合体育館で開催されました。10日に行われた開場式では、関係者によるテープカットが行われ「登米展」が開場しました。期間中会場には、素晴らしい芸術作品を見ようと多くの皆さんが訪れました。



▲市文化協会理事長や市長ら関係者によるテープカット

芸能・文化・食で秋を満喫

東和で「東和の秋まつり」

恒例の東和の秋まつりが11月7日、東和総合支所西側特設会場で開催されました。会場では、特設ステージで、町内の小中学校の生徒による合奏や太鼓演奏、文化協会の芸能発表、爆笑ステージなどが行われたほか、農産物林産物販売、軽食バザー、東和中の起業販売コーナーなどが設けられ、市内外からの大勢の来場者で終始にぎわっていました。また、東和総合支所2階には小中学校、恵泉会、文化協会の皆さんのさまざまな作品が展示され、訪れた人々は、作品を一つ一つじっくりと見て回っていました。



▲小学生の児童が迫力ある太鼓の演奏を披露

今後も死亡事故ゼロの継続を

登米町葛籠淵地区コミュニティ推進協議会（佐藤武夫会長）が11月9日、交通死亡事故ゼロ4500日を達成し市長から表彰状が贈られました。同地区では平成9年7月16日から平成21年11月9日までの4500日、交通死亡事故が一度も発生しておらず、日ごろからの交通安全活動に敬意を表すとともに、今後も死亡事故ゼロの継続を期待して表彰が行われました。表彰を受けた佐藤会長は「これからも地域の皆さんと共に交通安全に努め、5000日、6000日を目指し努力したい」と決意を新たにしていました。



▲「今後も死亡事故ゼロの継続を」と表彰状を授与される佐藤会長

実りとイベントで秋を楽しむ

米山で「ふるさとよねやま秋まつり」

ふるさとよねやま秋まつりが10月31日から11月1日の2日間、米山総合支所および道の駅米山で開催されました。会場では、商工祭や菊花展、文化祭が同時開催されたほか、リニューアルした道の駅米山でも、バザーや3mを超える巨大ダンボールアート、ちびっ子相撲大会などが開催されました。中でも、総勢200人による圧巻の「よさこい乱舞」や、ちびっ子に大人気の「子供ふれあいコーナー」には大勢の人が集まり、会場に訪れた皆さんは、思い思いに楽しい秋のひとときを過ごしていました。



▲子どもたちに大人気だった高さ約4mの「レインボースライダー」